高齢者公益事業部

2014年度、高齢者公益事業部の中期的な目標である“パーソン・センタード・ケアの浸透”、“認知症ケアマッピングの実践”は、拡張期を迎えた。特に認知症ケアマッピングにおいては全施設にて実践が終了した。今後、安定期として引き続き質の発展と継続の強化を目指す。

事業部内で進めているＥＱＣ（エデンの園事業の「質の確保」、「永続性及び発展性の維持」を目的とした品質管理システム〔ＥＤＥＮ ＱＵＡＬＩＴＹ ＣＯＮＴＲＯＬ〕）は明日見らいふ南大沢を皮切りに、4 施設へ導入し、関東地区における清掃業務及びリネン業者の一括発注、ＬＥＤの導入等により経営改善の面で効果を上げることができた。2015年度は、ＩＳＯ取得施設である浜名湖・宝塚エデンの園を除く残りの施設へ導入し、更なるサービスの質の向上と経営改善に注力する。

人材育成においては、質の高いサービスの提供と職員の研鑽のために、関連施設との 3 ヵ月交換研修を行い、実践していく。

また、コンプライアンスの面では税務署の指摘事項への対応を行い、より適正な税務・会計処理を構築することができた。指摘事項の対応として、附属診療所が併設しているエデンの園において開設以来続けてきた施設会計から附属診療所への繰入を廃止し、附属診療所は独立採算制となり決算は厳しいものとなった。2015年度は高齢者公益事業部と各エデンの園との協働のもと人員配置の適正化、入院患者数のアップ等による経営改善を進めていく。

新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業として、介護記録のＩＴ化を開始する。具体的には2014年度実証作業を行った介護記録の音声入力システムを藤沢ウェルフェアタウンにおいて導入し、介護職の業務の効率化・削減を実践し、他のエデンの園にも順次導入していく。

入居者募集活動については引き続き積極的に行う。新たな入居システムを構築し、入居率の安定による健全な経営を実現していく。直営 7 か所 8 施設の 数値目標として、入居契約件数 133 件、入園金合計 41 億円、事業部全体の当期活動増減差額として 2.9 億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1．法人理念の継承とエデン価値の確立と実践
2．経営の安定と永続性の確保
3．人材の採用・育成・定着の強化
4．サービスの質・安全・効率の向上
5．新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1． 法人理念の継承とエデン価値の確立と実践
（ア）法人理念・事業部・施設運営方針の浸透と自覚
（イ）パーソン・センタード・ケアの浸透、認知症ケアマッピングの実践と継続
（ウ）サービス内容の可視化

（エ）その人らしく最期まで生活することを支えるサービス（トータルヘルスケア）の実践
（オ）エンド・オブ・ライフケアとグリーフケアの推進
（カ）ＥＱＣの浸透・実践
※ＥＱＣ：エデンの園事業の「質の確保」「永続性及び発展性の維持」を目的とした、品質管理システム〔ＥＤＥＮ ＱＵＡＬＩＴＹ ＣＯＮＴＲＯＬ〕

２．経営の安定と永続性の確保
（ア）法律改正に伴う体制つくり（コンプライアンス）
（イ）販売対象居室 入居率95％を目指した募集活動の展開
2015年度 募集目標の達成（新規契約133戸、入園金合計41億円）
（ウ）ベンチマークシートの活用（項目策定）による経営、運営分析
（エ）環境及び耐久力等を考慮した建物・設備更新
（オ）耐震・老朽化対策計画の策定と実践

３．人材の採用・育成・定着の強化
（ア）人材の採用と定着への環境つくり
（イ）管理職のマネジメント能力の向上
（ウ）ケア部門ラダーの定着
（エ）事業部ラダーの作成
（オ）事業部内部門別専門研修の拡大
（カ）中堅職員のレベルアップ

４．サービスの質・安全・効率の向上
（ア）感染症の拡大（集団感染）防止
（イ）事業部・地域（市、自治会など）と連携した防災体制つくり
（ウ）リスク対策の強化
（エ）省エネルギー・環境対策
（オ）各種満足度調査の改善点への取り組み

５．新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
（ア）新しい高齢者住宅計画の検討
（イ）有料老人ホーム経営・運営ソフトの提供
（ウ）次世代介護の創造と技術の共同開発（介護ロボット、介護備品）

【数値指標】（新規契約のみ）　2015年度期末

入居契約目標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢1番館	藤沢2番館	合計
件数	25件	17件	13件	25件	22件	12件	13件	6件	133件
入居率	92.0%	97.0%	94.4%	89.6%	91.1%	98.0%	95.7%	88.0%	93.2%

高齢者世話ホーム　浜名湖エデンの園

2014年度は、他の施設の見本となるような安全管理体制の充実や、その人を大切にしたケアの実践を通して、エデンの園のあるべき姿をもう一度考え、浜名湖エデンの園ブランドの確立に取り組んだ。

2015年度は、長年懸案事項となっていた、老朽化した1・2号館の耐震・耐久対策として、具体的なマスタープランに添って、第一歩を踏み出す。

また、秋にはＩＳＯを取得して4年目を迎えることとなり、各職場において新たなマニュアルの作成による標準化や、ＩＳＯのマニュアルを利用した教育システムを再構築していく。同時に、パーソン・センタード・ケアに基づくサービス提供は、3年目を迎えるため、ケアサービス課を中心とした取り組みの成果と課題をエデンの園全体に発信し、全職場にパーソン・センタード・ケアの意識の浸透を図り入居者の思いに寄り添い、入居者の視点に立ったサービスの提供に努めたい。

また、元気な方に取り組んできた介護予防体制の充実として、筋力測定機能付きトレーニングマシンを使い、医師、看護師と連携しながら、専任の健康運動指導士や作業療法士がチームとなり、普段使われていない筋肉の活性化をし、軽い負荷での安全確実なトレーニングを導入する予定である。より多くの選択肢を用意し、健康上の問題で日常生活が制限されることなく、入居者がいつまでも元気で健康でいられる、健康寿命を延ばす努力をする。

食事に関しては、大食堂・ケア棟食堂にて2014年度以上に入居者に感動と感激を味わっていただけるようなライブキッチン（見せる調理）の実施を行うと同時に、一人ひとりにきめ細かい個人対応をし、食の満足度をアップさせたい。

入居者募集については、入居促進に向け、セミナー・広告・チラシ配布等を利用し、知名度を上げるとともに、個別対応を重点的に行い、入居率の向上と入居者数の増加による経営の安定化を目指す。

なお、職員一人ひとりが自分の周りの人との関係を尊重しながら、自らの責務を果たせるよう、達成感とやりがいのある働きやすい職場環境つくりに努め、職員のモチベーションアップを図る。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。

【経営方針】

1．個人の意思を尊重したエデンの園オリジナルサービスの確立と実践
2．次世代を担う人材確保と育成
3．安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4．安全管理・感染管理の徹底を図ったサービスの提供
5．地域社会との協調・交流の推進

【事業・運営計画】

1．個人の意思を尊重したエデンの園オリジナルサービスの確立と実践

（ア）パーソン・センタード・ケアに基づくサービスの実践と意識の浸透

（イ）ＩＳＯ(標準化)とパーソン・センタード・ケア(個別化)サービスの両立

（ウ）入居時から終末期まで連動したケアの実践

（エ）入居者誰もが落ち着いて寛ぐ環境作り

2．次世代を担う人材確保と育成

（ア）「法人理念」「施設理念」の継承・発展させたサービスの提供

（イ）施設の「事業・運営計画」「予算」を全職員が理解し達成に参画

（ウ）各職員の問題発見能力・対人援助技術能力の向上

（エ）管理職として求められる能力を明確にし、主体的な行動による業務遂行

3．安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

（ア）全職員が募集スタッフとしての意識を持ち、入居率目標の達成

（イ）1・2号館の耐震・耐久プラン開示と具体的運用の検討

（ウ）介護報酬改定の変更要件を理解し、新たな体制つくり

（エ）職員一人ひとりがコスト意識を持ち、経費節減への取り組み強化

（オ）診療所の赤字原因の分析を行い、収入を増やす方法の模索

4．安全管理・感染管理の徹底を図ったサービスの提供

（ア）入居者・職員への感染症予防の意識づけと教育の徹底

（イ）リスク分析を確実に行い、再発防止へのさらなる取り組み強化

（ウ）防災訓練の実施方法の見直しを行い、入居者・職員の防災意識向上

（エ）職員の健康つくり、充実した労働環境への取り組みを実施

5．地域社会との協調・交流の推進

（ア）地域社会活動・地域防災活動に積極的に参加

（イ）聖隷学園・ゆうゆうの里との相互理解・有機的な連携の推進

（ウ）地域の他業種との情報交換、交流の実施

【数値指標】　　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数/総戸数	306戸/330戸	49戸/56戸	355戸/386戸
入居者数/定員	361名/460名	54名/59名	415名/519名
入 居 率	92.7%	87.5%	92.0%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	10名	17名	39名	17名	17名	9名	10名	119名

職員数（常勤換算）	118.3名

ウェル・エイジング・コミュニティ　宝塚エデンの園

2014 年度は開設 35 周年にあたり、多彩な記念行事でお祝いするとともに、今に至るまでの先人たちの尽力に感謝する年であった。

当園では入居者満足・職員満足・経営安定を事業の 3 つの柱とし、ＩＳＯ9001 による自己点検を重ねながら安定した運営を目指してきた。2015 年度も同様に臨みたい。このＩＳＯは、初度の認証から 5 年が経ち、2 回目の再認証を受ける時期となる。これを機会にＩＳＯ認証に関する見識をさらに深め、サービスの質の向上と維持に努めていく。

2014 年度の年間平均入居率は 96.8%以上を堅持することができ、経営は順調に推移している。募集活動は順調であり、2015 年度は期末入居率 97%を経営指標とする。

近年、介護保険認定者数の増加に伴いサービス供給量が膨れつつある。それらに対応するためケア職員の増員を図り、並行して介護予防や増悪化軽減の取り組みを多角的に拡充しなければならないと考えている。

終末期ケアは附属診療所及び介護居室で実践を積み重ねている。今後はケア部門のみに留まらず、入居から看取りまでのトータルサポートを全課連携の元に取り組んでいく。

また、地域施設・地域住民との交流に傾力し、特に異常気象がもたらす災害に備え地元自治会とも協力関係を具体的に構築する。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1．私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります
2．私たちは、ご入居者とともに 5 つ星の施設づくりに努めます
3．私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたより良いサービスを提供します
4．私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します
5．私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます

【事業・運営計画】

1．入居者満足の向上への取り組み
（ア）入居者満足度調査の分析と改善への取り組み（目標：星 4.2 以上）
（イ）食事サービスのさらなる充実
（ウ）その人らしい生活を最期まで支えるためのサービスの連携
（エ）パーソン・センタード・ケアの実践
（オ）看取り及びグリーフケアの理解と実践
（カ）ＩＳＯ9001 認証の維持と活用

2．職員満足の向上への取り組み

（ア）職員満足度調査の分析と改善への取り組み

（イ）接遇力向上と組織・職員間のコミュニケーション強化

（ウ）法人理念、事業部経営方針及び施設運営方針の浸透

（エ）職業倫理・コンプライアンス意識の向上

（オ）メンタルヘルスへの取り組み

（カ）育成システムの活用及び人材定着の強化

3．健全経営体制の維持

（ア）全職員が募集活動を推進し、期末の入居率97%を確保

（イ）附属診療所部門の経営体制強化

（ウ）費用対効果を考慮した経費管理と省エネルギーの取り組み

（エ）リスク、苦情への迅速な対応

4．安全・安心な暮らしの提供

（ア）感染予防対策の徹底と発生時の連携強化

（イ）災害や救命時の緊急対応の強化

（ウ）安心して生活できる環境整備

【数値指標】　　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	348戸/354戸	44戸/50戸	392戸/404戸
入居者数	409名	44名	453名
入 居 率	98.3%	88.0%	97.0%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	35名	11名	24名	11名	18名	10名	11名	120名

職員数(常勤換算)	136.2名

高齢者世話ホーム 松山エデンの園

2015 年度に開園 35 周年を迎える松山エデンの園では、入居者が徐々に高齢になり、平均年齢は 84 歳に近づき、要介護認定を受けられる方が全体の半数になりつつある。そのような状況の中、2014 年度は入居者の関心の高い介護予防活動について、従来からの各種機能向上や講演活動等を年間事業として実施し、より見える化を進めた年であった。また、健康寿命のデータ分析により、これまでの園運営とライフステージに応じた個人の健康づくりの成果がリンクし、国の平均を大きく上回ることが分かった。秋には第 1 回の介護フェスタを開催し、入居者への更なる安心につながるとともに、地域住民の方々にも当園の活動の一端を公開することができた。

また、地域防災活動において相互協力協定を見直し、合同防災訓練を開催するなど、地域の中での存在価値を高めつつある。環境整備においては、機械浴の導入や玄関周りの整備、西日対策工事、共用部のＬＥＤ化など住環境整備や中長期的な経費節減にも努めることができた。ひとえにご入居者のご理解ご協力の賜物と感謝申し上げる。

2015 年度は、これまでの活動をベースに 40 年、50 年に向かって園運営を安定させ、安らぎの住まいを継続して提供していくための再整備の年にしたい。新規入居者の獲得はもとより、園内各種行事や介護予防活動、家庭的な食事の提供を始めとした各種サービスを一つひとつ検証し、防災活動など地元での活動にも注力し、医療法人聖愛会との連携をさらに深め、より一層入居者の要望に応えたい。

【施設理念】

『 明るく楽しく共に輝いて生きる 』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1．質の高いケアの提供
2．安全で美味しい食事の提供
3．人材の育成
4．安定した園運営を永続するための入居率の向上
5．地域貢献・交流の推進

【事業・運営計画】

1．質の高いケアの提供
　（ア）入居者に安心と信頼を感じて頂ける生活支援の実施
　（イ）パーソン・センタード・ケアの考え方に基づいた認知症ケアの実践
　（ウ）入居者の健康管理の積極的支援
　（エ）入居者主体の介護予防活動の実践
　（オ）入居者の気持ちを大切にしたターミナルケアの実践

（カ）職員・職場間の連携と協力

2．安全で美味しい食事の提供

（ア）多彩な食材・食事の提供による食事満足度の更なる向上

（イ）地産食材導入の推進と適正なコスト管理の両立

（ウ）生きがいのある生活の支援（介護食の追及）

（エ）“おもてなし”の心を大切にした食堂づくり

3．人材の育成

（ア）法人理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上

（イ）園全体でのパーソン・センタード・ケアの考え方の理解浸透、認知症ケアマッピングができる人材の育成

（ウ）職員一人ひとりの個性を尊重し個の力を育成するための各種研修参加への積極的支援

（エ）コミュニケーション能力の向上

4．安定した園運営を永続するための入居率の向上

（ア）新規契約戸数　13戸15名

（イ）入居検討者のニーズに応じた受入れ対応（介護棟への直接入居）

（ウ）新しい販売方法の検討・導入

（エ）全職員一丸となった募集活動への取組み

（オ）費用対効果を考慮した省エネルギー機器設備への更新・転換

（カ）職員・入居者への省エネルギーに関する情報提供と啓蒙活動

5．地域貢献・交流の推進

（ア）地域を巻き込んだ防災避難活動、環境保全活動への取組み

（イ）地域行事への参加と協力

（ウ）地域の医療・介護連携への参画

（エ）職員研修・サービス向上等実務面における医療法人聖愛会との連携強化

（オ）入居者の医療サポートの見直し強化

【数値指標】　　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	102戸	32戸	134戸
入居者数	118名	33名	151名
入 居 率	95.3%	91.4%	94.4%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	23名	8名	8名	7名	12名	10名	7名	75名

職員数（常勤換算）	59.23名

高齢者世話ホーム　油壺エデンの園

2014年度は開設より28年目を迎えたこと、8・9号館が11年目を迎えたこと、これらにより既存棟、新棟ともに入居者の平均年齢の高齢化が進んだ。平均年齢は83歳前後で推移し、介護サービスに加え、生活支援サービス利用者が増加している。改めて高齢者にとって安心出来る施設作りが必要であると感じた年であった。運営面では4月に園長、診療所所長が交代、新たな体制にてスタートした。診療所所長が6月末にて退職となり、園内の混乱を招いてしまったが、幸いにも12月には新所長を迎えることが出来た。その間、特にご入居者に対してご迷惑をお掛けした。今後の大きな課題点はホームドクターである診療所所長が継続的に勤務して頂くことであることを改めて認識した。経営面においては、新規入居者の契約は一定の成果を挙げたものの予算未達成となったことから、収益面も厳しく、費用面では経費削減を行うも経常利益としては2013年度と同様の厳しい見込みとなった。

2015年度は、経営改善の課題もさることながら運営面の課題改善に向けた具体的取組を進めていきたい。基本的な施設運営の柱としては、高齢者公益事業部が 2011 年度より導入したパーソン・センタード・ケアの考え方を2014年度迄は実質的にはケア中心に行っていたが、これからは全入居者を対象として全職員に浸透したい。人と人との誠実なつながりを深め、尊重し合う関係をつくることにより、サービスをする側・される側の区別なく、「私は必要とされている」と感じられる相互関係をつくることを進めていきたいと考える。ハード面については、玄関改修工事より開始し計画的に共用部の改築等により良い環境づくりを推進する。

施設経営の柱としては、入居者満足度向上を推し進めることを優先とする。その上で全職員が入居募集スタッフとしてそれぞれの役割に応じた募集活動に参画することを進めていく。このことは、ご入居者の皆様にも従来通りご協力頂きたい。また、一般居室の入居率が2015年度期末にて90%以上を確保することを目指していきたい。

2015年11月1日にて開設満29年となる年でもある。2016年11月に迎える30周年をどの様に迎えるべきかをご入居者の皆様と考えていきたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と　ここちよく　共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1．安全、安心を基盤とした各種サービスの質向上
2．自ら考え行動できる職員の育成
3．安定した施設運営
4．環境・省エネルギーへの取組みと地域との関わり
5．災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1．安全、安心を基盤とした各種サービスの提供と質の向上

（ア）パーソン・センタード・ケアの浸透・実践
（イ）感染症予防対策の強化
（ウ）転倒事故防止対策の実践
（エ）全入居者への適温で美味しく安全な食事サービスの提供
（オ）入居者ニーズに合わせた行事の企画
（カ）要支援・要介護者の増加と重度化への取組み
（キ）開設30周年記念事業検討

2．自ら考え行動できる職員の育成
（ア）法人理念、事業部・施設運営方針の浸透と自覚
（イ）職員個々の役割意識の向上
（ウ）園内のネットワークも含めた情報の共有と連携の強化
（エ）人財の確保と労働環境の改善

3．安定した施設運営
（ア）販売対象居室（一般居室）の入居率90%(期末)以上確保
（イ）全職員が募集スタッフとして募集活動に参画
（ウ）地域特定（横浜南地区から横須賀地区）と有望顧客に絞り込んだイベント企画
（エ）コスト管理による経費削減
（オ）介護保険制度改定に則った組織運営
（カ）ＥＱＣ（ＥＤＥＮ ＱＵＡＬＩＴＹ ＣＯＮＴＲＯＬ）の構築

4．環境・省エネルギーへの取組み強化と地域との関わり
（ア）地域貢献活動（環境保全）への参加
（イ）エコロジー活動による省エネルギー・資源循環活動
（ウ）職場環境整備のための５Ｓ運動（整理・清掃・整頓・清潔・躾）の実践

5．災害時の対策、防災教育の徹底
（ア）夜間・休日を想定した災害、防災訓練の実施
（イ）入居者・職員の防災意識の向上
（ウ）地域と連携した防災体制の検討

【数値指標】　　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	343/379戸	37/45戸	380/424戸
入居者数	434/500名	39/50名	473/550名
入 居 率	90.5%	82.2%	89.6%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	12名	21名	21名	15名	18名	17名	13名	117名

職員数(常勤換算)	137.06名

介護付き有料老人ホーム　浦安エデンの園

2014年度、浦安エデンの園の入居者サービスは大きく変化した。ケア部門では、パーソン・センタード・ケアの考え方を取り入れ、認知症ケアマッピングを実施した。また、一般居室係の窓口をフロント横につくり、入居者が気楽に健康相談をできる環境を整えた。開始から多くの入居者が利用している。これにより入居者の行動が活発になり、園の雰囲気は一変した。食事部門では、体調に合わせた食事の提供を新たに開始した。

2015年度は、これらの新しいサービスを前進させ、質の向上を図っていく。各部門のサービスを入居者の個人個人に合ったものにし、満足度を高めていく。そのために部門間の連携強化を図る。また、2014 年度に開始した「楽縁プロジェクト」(園内の企画を入居者参画型で楽しく満足感を味わってもらい、ひいては入居者が外部に向かって「ここはすばらしい施設である」と言ってもらえるエデンの園にしようというプロジェクト)が徐々に園内に浸透しており、2015年度は更なる充実を図る。

地域への公益活動は、近隣の保育園の津波避難場所として施設を開放し、実際に園児達の避難訓練を行う。また、介護等の意識を高めていただくために、介護フェアやエデンフェアを通して多くの浦安市民や地域の皆様方が来園するよう広報していく。

経営については、移譲後初めて施設会計の黒字化を目標に挙げ、職員が一丸となって目標達成に向けて協力していく。それに加え、高齢者公益事業部との連携を密にして、委託業者の統一や共同購入、業務の棲み分け等を実施していく。募集活動はAタイプの販売が中心となるので、Aタイプに特化した企画を練り、実施していく。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1．エデンらしい良質なサービスの追及
2．自立した施設運営の実現
3．安心・安全な施設づくり
4．法人理念・事業部経営方針及び施設経営方針の浸透と、職員を大切にする園づくり
5．環境・省エネルギーへの取り組み強化と、地域社会貢献活動への積極的実施と開催

【事業目標・運営計画】

1．エデンの園らしい良質なサービスの追及
　(ア) パーソン・センタード・ケアの園全体での取り組み推進
　(イ) 楽縁プロジェクトの推進と評価
　(ウ) 質の確保とトータルバランスがとれた食事の提供及び栄養アセスメント、状態に合わせた食形態の見直し
　(エ) 看取り介護の質の向上

（オ）一般居室係と生活サービス係の連携によるフロントでの入居者支援強化
（カ）管理規程、介護基準に基づいた適正なサービスの提供
（キ）苦情の迅速な共有、対応と、その後の適切な対応

2．自立した施設運営の実現
（ア）各課が連携した募集活動の実現と、早期の入居率95%を目指した募集体制の強化
（イ）特定施設入居者生活介護の適正な加算の算定
（ウ）喫食率3%アップと材料費率2%削減の実現
（エ）職員のコスト意識の向上と、費用を軽減するための具体的提案と実施

3．安心・安全な施設づくり
（ア）感染症の集団感染発生0を目指した取り組み
（イ）リスク対策の強化とコンプライアンス意識の向上
（ウ）全職員の防災マニュアルに基づいた“動き”を可能とした訓練の実施
（エ）防災訓練への入居者の参加増加を目指した工夫と、共助への理解推進
（オ）近隣・地域と連携した地域防災協定の検討

4．法人理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透と、職員を大切にする園づくり
（ア）高齢者公益事業部の経営方針及び施設運営方針の浸透
（イ）“次”を担う人材の育成
（ウ）職員の定着率向上を目指した取り組みの強化
（エ）働きやすい職場作りと、メンタル不調者予備群の早期発見、早期対応
（オ）介護ラダーを定着させる取り組みと、看護ラダーの導入

5．環境・省エネルギーへの取り組み強化と、地域社会貢献活動への積極的開催
（ア）環境・省エネルギー活動への全職員の意識向上
（イ）入居者参画型の環境保全活動の継続
（ウ）地域開放型イベントの開催増

【数値指標】　　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	182戸	22戸	204戸
入居者数	207名	22名	229名
入 居 率	93.3%	75.9%	91.1%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	19名	7名	12名	8名	8名	5名	5名	64名

職員数(常勤換算)	68.07名

介護付き有料老人ホーム　横浜エデンの園

2014年度は、開設5年目という節目の年として「横浜エデンの園らしいサービスを確認・追及するとともにリスク管理の強化、特に事故や入居者・家族からの声を真摯に受け止めサービス向上に繋げていく」ことを目指し取り組んだ。横浜エデンの園らしいサービスとは何か？職員に問いかけ・確認したところ、入居者、一人ひとりのためのサービス担当者会の在り方・聖隷横浜病院との医療連携が挙げられた。サービス担当者会議は、各職種と個々の入居者家族が集い、各職種が責任を持って説明するという、横浜独自の方法を検討し、3年目となり喜んでいただけるケアプラン作成ができた。今後も継続し検討を加えながら、さらに満足していただけるケアプラン作成に取り組んでいく。

聖隷横浜病院との医療連携は外来・緊急時受診や「看取り」への協力体制を得ることができた。2015年度は開設当初から課題であった、24時間の医療連携がスムーズに行える体制づくりへ、積極的に取り組んでいく。また園の特徴である、医療依存度の高い入居者に対しては、本人・家族の意向を確認しながら、エンド・オブ・ライフが充実したものになるように聖隷横浜病院緩和ケアチームとの連携も取り入れ、入居者にとって安心して、安楽な生活を提供できるように配慮していく。そして同事業団医療施設の隣接する地の利を活かし、入居者へ「安心」を提供できる「横浜エデンの園モデル」を目指す。

聖隷横浜病院とは、合同防災訓練や病院主催の学会や催事への参加を積極的に行った。また、地域との防災協定の締結もできた。2015年度は、聖隷横浜病院合同の防災訓練や、催事への参加のみならず、現状に即した情報交換も取り入れ連携を密にしていく。地域へは、防災訓練への参加を呼びかけ、横浜エデンの園を知っていただくように働きかけていく。

2014年度は、短期間ではあったが入居率100%を達成できた。しかし、入居者の突然の逝去や入居者・家族の意向の違いによる退去のため100%を維持することは厳しく、苦戦を強いられた。2015年度は、入居者の健康管理に力を入れ、入居者からのサインをキャッチする能力を高められるよう研修を実施していく。また、ご家族の意向確認は当然ではあるが、入居者の「想い」に寄り添えるようにパーソン・センタード・ケア、認知症ケアマッピング（ＤＣＭ）を職員全員にさらに浸透させていく。

2015年度は、過去5年間に達成できない課題として「タイムリーな情報共有」がある。上記に掲げた取り組みの基盤は、職員間の情報共有にあると考える。2015年度は、この課題を克服できるように、より一層のチームケアの向上を目指し、以下に掲げる事業・運営計画の達成に向け全力を尽くしていく。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出逢えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1．安全・安心・良質なサービス提供

2．人財の育成

3．経営基盤の安定と永続性の確保

4．地域社会との連携と協働

5．環境・省エネに対する意識強化

【事業・運営計画】

1．　安全・安心・良質なサービスの提供

（ア）　タイムリーな情報共有とチームケアの充実

（イ）　リスク対策の強化（感染・事故・苦情相談）

（ウ）　職員全員へのパーソン・センタード・ケアの浸透と認知症ケアマッピングの実践

（エ）　エンド・オブ・ライフケアの充実に向けて聖隷横浜病院の緩和ケアチームと24時間医療連携の維持

（オ）　入居者満足度調査結果を評価・分析し改善に向けて取り組む

2．　人財の育成

（ア）　施設理念・方針の浸透に向けた取り組み

（イ）　心のこもった接遇技術の更なる向上

（ウ）　教育システムの構築

（エ）　メンタル不調者発症ゼロを目指す

3．　経営基盤の安定と永続性の確保

（ア）　平均入居率96%の維持

（イ）　職員全員のコスト意識の強化

（ウ）　収支構造の改善に向けた取り組みの実践

4．　地域社会との連携と協働

（ア）　地域防災連携の構築と実践

（イ）　地域への貢献活動に取り組む

5．　環境・省エネルギーの取り組みの強化

（ア）　入居者と協働したエコロジー活動

（イ）　省エネルギー・エコロジー活動の啓蒙の継続

【数値指標】　　2015年度期末

	2015年3月末	2015年4月 ～2016年3月	計（退去10戸除く）
契約戸数	47戸	12戸	49戸
入居率	94.0%	98.0%	98.0%

※退去戸数を10戸で計上

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	6名	3名	13名	7名	4名	7名	7名	47名

職員数(常勤換算)	49.4名

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

聖隷藤沢ウェルフェアタウンには住宅型有料老人ホーム・介護付有料老人ホーム・特別養護老人ホーム・在宅サービス室の事業がある。2014年度は各事業において“サービスの質の向上と経営の安定化”を図るとともに当園の特徴である“複合施設”としての機能を活かすための連携強化に取組んだ一年間であった。まだ発展途上ではあるが、利用者へサービスを提供するにあたっての連携がスムーズにとれる体制ができた。また、職員教育や衛生管理などの面においても聖隷藤沢ウェルフェアタウン全体として連携がとれる組織になってきた。2015年度も各施設における利用者ニーズに応えられるよう更に連携を強化して、“サービス内容の充実や質向上”に取り組んでいく。また、その取り組みを利用者に知っていただくことも利用者との信頼関係を築く上で大切であると考えている。

経営の安定化については、住宅型有料老人ホームである藤沢エデンの園一番館の入居率は当初からの目標であった95%に近づいており、2015年度中に達成するとともに、その後はこの入居率を維持することが重要となる。また、介護付有料老人ホームである藤沢エデンの園二番館・特別養護老人ホーム藤沢愛光園や在宅サービス室の各介護保険サービス事業では、介護報酬改定への対応と共に新たな事業展開も模索しながら、利用者数の確保や増加を図っていく。

聖隷藤沢ウェルフェアタウンは開設5年目を迎えるが、今年度も各施設・事業所において利用者に対して心の通ったサービスの提供に努め、利用者だけでなく職員も働くことに喜びや誇りを持てる施設運営に取り組んでいく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの　～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1．お一人おひとりの意思を最大限に尊重します
2．各事業が総合化力を発揮し最良のサービスを提供します
3．地域・社会とのつながりを大切にします
4．全ての職員が日々成長できる環境を自らが作ります
5．効率化・業務改善を常に意識し安定した経営を目指します

【事業・運営計画】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1．『隣人愛』精神の浸透と専門職としての教育システムの構築
2．入居率・利用率の確保と安定した経営
3．聖隷藤沢ウェルフェアタウン内の連携強化
4．地域(住民・医療機関・施設・行政機関など)との良好な関係づくり

藤沢エデンの園

住宅型有料老人ホームである一番館、介護付有料老人ホームの二番館ともに開設5年目となる。2015年度はこれまで以上に“生活”“食事”“ケア”“運営”等のあらゆる面で“質の高いサービスを提供する”という意識を強く持ち、入居者が園に対して信頼や安心を実感できる園運営を行う。

【藤沢エデンの園　一番館】

1．入居者に提供するサービスを可視化する

2．安定した経営基盤の確立をするための入居率95%達成と維持を目指す

3．地域と良好な関係を築き、入居者が安心できる環境をつくる

（数値目標）　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	200戸/209戸	—	200戸/209戸
入居者数	259名	—	259名
入居率	95.7%	—	95.7%

職員数(常勤換算)	46.8名

【藤沢エデンの園　二番館】

1．パーソン・センタード・ケアに基づいた認知症ケアとエンド・オブ・ライフケアの実践

2．入居者の家族、各部署と連携して一番館を含めた迅速なサービスを提供する

3．働きやすい職場環境をつくり、入居率88%を目指す

（数値目標）　2015年度期末

	2015年3月末	2015年4月 ～2016年3月	計
契約戸数／総戸数	38戸/50戸	44戸/50戸	44戸/50戸
入居率	76.0%	88.0%	88.0%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	2名	4名	7名	12名	6名	10名	5名	46名

職員数(常勤換算)	37.46名

藤沢愛光園

当施設の所在する湘南ライフタウンは2年後には藤沢市の中でも高齢化率が最も高くなる地域であり、2015年度は地域交流により地域における必要性・存在価値を高める活動を展開する。よって「地域、利用者一人ひとりのために最善を尽くす」を掲げ、枠にとらわれない施設運営・サービスの提供を目指し重点目標に取り組む。

サービスの質の向上としては介護過程の展開による個別ケアの実施を継続する。また、2014年度同様に安定した入居率（利用率）の確保はもちろん、いつでも対応可能な短期入所を目指し、

地域のニーズに応えていく仕組みづくりを行う。人財育成と教育に関しては、ＥＰＡによる介護福祉士候補生への支援継続やパーソン・センタード・ケアを基にした教育体制、喀痰吸引体制整備等により働きがいのある職場の実現と専門的教育を実施して行く。

【藤沢愛光園】

１．サービスの質の向上

２．安定した入居率の確保

３．地域との交流・地域への貢献

４．人財の育成と働きがいのある職場の実現

５．専門的教育の実施

（数値目標）

	特養入所	短期入所
利用者定員	100 床	20 床
利用者延べ人数	35,502 人	6,954 人
営業日数	366 日	366 日
一日平均利用者数	97 人	19.0 人
稼動率	97.0%	95.0%
単価（１人１日あたり）	13,343 円	12,962 円
サービス活動収益	480,770 千円	91,220 千円
職員数（常勤換算）	61.56 人	13.75 人

職員数（常勤換算）	75.31 人

藤沢在宅サービス

2014 年度は、地域に事業が浸透した結果としての利用者確保ができ、2 事業所の黒字経営に繋がっている。2015 年度は、マイナスの介護報酬改定に立ち向かえるためにも、体制の確立と各事業の質の向上に取り組み、地域のさらなる信頼を得ていくことに挑戦し続けていく。

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2014 年度は安定した収支バランスを確保することができ、黒字での経営となった。

今年度は、特色である機能訓練型のデイサービスを継続し、特に個別での機能訓練に力を入れていく。また、組織としての運営ができるよう、人材育成に力をいれていく。

利用者のニーズに対応した事業所運営を行い、地域に選ばれるデイサービスとなるよう、安定した事業所運営を図る。

（数値目標）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益
平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	月訪問数	年間訪問件数	介護給付（回）	予防給付（月）	
26.5 名	686 件	8,232 件	15 件	180 件	9,076 円	36,035 円	86,810 千円

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

2014 年度は地域包括支援センターや病院との連携を続けたことで、新規の利用者が毎月 4 件～12 件と継続して受け入れる事ができた。2015 年度は特定事業所加算Ⅱを取得し、利用者への 24 時間対応や事業所の研修体制を整備し、安定した経営に繋げていく。またエデンの園の利用者への連携体制は整ってきたが、それを更に各部門に浸透させ、強化していく。

（数値目標）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,604 件	505 件	14,791 円	4,139 円	0	0	25,820 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2014 年度新規利用者月平均 6.3 名、終了者月平均 4 件、空き情報の提供や営業に回り、依頼は 2 件であったが訪問件数の伸びには繋がらず予算には未達であった。2015 年度は引き続き新規獲得の営業活動を行い、利用者に必要なサービスが提供できるように職員の育成、人員の確保、特定事業所加算Ⅱの取得を行っていく。また、利用者が住み慣れた地域に住み続けられるよう必要なサービス体制の検討、整備に取り組んでいく。

（数値目標）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益
平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	月訪問数	年間訪問件数	介護給付（回）	予防給付（月）	
45.5 名	528 件	6,336 件	114 件	1,368 件	3,626 円	15,828 円	37,960 千円

※職員数欄に登録ヘルパーは未計上、総収入は有償サービス・自立支援を含む

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2014 年度は人員の入れ替わりはあったが、正職員の確保ができ、安定した運営の基盤ができた。訪問単価が医療保険・介護保険ともに予算に届かず、収入は予算に対して未達であった。

2015 年度は機能強化型訪問看護ステーションの算定要件を整え、取得し維持することで単価のアップを行い、さらに地域に信頼される訪問看護ステーションとなるよう取り組んでいきたい。

（数値目標）

平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	単価（円）	サービス活動収益
92.3 名	542 件	6,509 件	9,643 円	63,000 千円

ウェル・エイジング・プラザ　奈良ニッセイエデンの園

2014年度は、有料老人ホームの一般居室が高い契約率を維持する中、介護居室の迅速な住み替えを推進することで運営の安定化を図った。また、各施設が経営基盤の安定を目指し、特に奈良ベテルホームと在宅部門の各事業が地域の利用者を支えるために連携し、新たな渉外活動による経営改善を積極的に取り組んだ。リハビリテーション部門においては、入居者や利用者の自立支援を横断的に連携強化するため、リハビリテーション室を組織化した。サービス面においては、パーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービス提供を根幹とし、法人理念である「キリスト教精神に基づく隣人愛」の浸透を目的にパーソン・センタード・ケア委員会、人財育成委員会を新たに立ち上げた。また、地域の教育機関や福祉施設を招待し、地域の学びの拠点となるべく奈良ニッセイエデンの園学会を開催した。

2015年度は、複合施設の強みを活かし、地域のニーズをより深く理解し、より多くの利用者に選択される施設となるよう、介護保険改正を見据えた更なる渉外活動を強化していく必要がある。運営面においては、介護予防の強化とエンド・オブ・ライフケアの推進を図るとともに、継続してパーソン・センタード・ケアの考え方を浸透させる。職員一人ひとりには法人理念や施設理念を浸透させ、「最も信頼できる隣人」としての自覚を持ちながらサービスの質の向上を図る年としたい。また、この地域における介護、福祉サービス・地域防災・学びの拠点となるように他施設との連携強化に努めていく。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1．私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります

2．私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします

3．私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1．法人理念の浸透とトータルケアサービスの実践

（ア）プラスワンのサービス提供の継続

（イ）利用者にとって安心で快適な「家」の提供

（ウ）複合施設としての価値の確立と施設連携モデル図の実践

（エ）楽しさの創造、利用者参画型サービスの提供

（オ）食べる楽しみの追及と提供

（カ）満足度調査結果の分析に基づくサービスの改善

（キ）介護予防・生活リハビリテーション等による自立支援の促進

2．安定した経営基盤の確立

（ア）複合施設の強みを活かした地域ニーズの積極的な受入体制の確立

（イ）法改正を含む制度理解と安定運営のための収益確保

（ウ）地域支援事業への積極的な参画

（エ）募集機能の強化と連携

（オ）経営指標の可視化共有による経営意識向上
（カ）業務・サービス内容の数的把握と効率化
3．人財の育成・活用・定着の強化
（ア）介護ラダーの目標参画への定着とＯＪＴの実践
（イ）看護ラダーの運用の定着
（ウ）ＯＪＴを推進できる次世代を担う人財育成
（エ）他施設との横断的な人財交流の推進
（オ）専門研修への計画的参加と専門資格の取得支援
（カ）人財の安定確保への取り組み
（キ）職員一人ひとりの心身の健康管理への取り組み
4．サービスの質・安全・効率の向上
（ア）感染対策の徹底と集団感染の防止
（イ）チャレンジ精神を忘れないリスク対策の強化
（ウ）ＥＱＣ（ＥＤＥＮ ＱＵＡＬＩＴＹ ＣＯＮＴＲＯＬ）のシステム構築と浸透
（エ）コンプライアンス意識の向上
（オ）会議・委員会の効率化
（カ）環境・省エネルギー活動の継続
（キ）次世代の介護支援技術の導入
5．地域及び他施設との連携・交流
（ア）地域における介護サービスの拠点となる
（イ）ＷＡＣ施設としての地域貢献と他施設連携の強化
（ウ）利用者とともに地域防災拠点としての施設防災体制の確立
（エ）地域における「学び」の拠点となる

有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2014 年 12 月末時点において、入居契約件数 392 戸（一般居室 354 戸、介護居室 38 戸）入居率は 96.1%（一般居室 97.8%、介護居室 82.6%）である。また、入居者の平均年齢は全体で 81.5 歳である。

2015 年度は、パーソン・センタード・ケアの継続とともに、入居者のエンド・オブ・ライフケアの推進を図るため、常に最善を尽くしてサービスを提供する。

【事業・運営計画】
1．法人理念の浸透とトータルケアサービスの実践
（ア）施設内連携を実践し、エデンの園の価値を高める
（イ）生きがい作りや食べる楽しみの追求と提供
（ウ）満足度調査結果の分析に基づくサービスの改善
（エ）『健幸生活』を送れる仕組み作りを行い、介護予防を推進する
（オ）施設内の機能を活かし、安心できる生活の場を提供する
2．安定した経営基盤の確立
（ア）募集と連携し、住み替えと新規入居の対応を速やかに行う

（イ）部署毎に経営指標の可視化し、コスト意識を高める

（ウ）業務・サービス内容の数的把握と効率化

3．人材の育成・活用・定着の強化

（ア）介護ラダーの目標参画への定着とＯＪＴの実践

（イ）看護ラダーの運用・定着

（ウ）ＯＪＴを活用した職員教育の推進

（エ）他施設・他部署の交換研修を計画的に行う

（オ）職員一人ひとりの心身が健康で働ける職場作り

4．サービスの質・安全・効率の向上

（ア）感染対策の徹底と集団感染の防止

（イ）リスク事故を検証し、より安全な質の高いサービスの提供

（ウ）ＥＱＣのシステム構築と浸透

（エ）会議・委員会の効率な運営

5．地域及び他施設との連携・交流

（ア）ＷＡＣ施設としての地域貢献

（イ）地域におけるケアの拠点となる

（ウ）施設の防災体制を確立し、地域防災の拠点づくりを行う

（エ）ボランティアの活用

【数値指標】　　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	360戸	33戸	393戸
入居者数	459名	35名	494名
入 居 率	99.4%	71.7%	96.3%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	24名	27名	35名	20名	9名	9名	6名	130名

職員数（常勤換算）	95.83名　※有料老人ホーム部分

高齢者総合福祉センター

2014年度は、各講座・イベントのスクリーニングを徹底して行い、企画の質の向上・効率化を図った。まほろばホールでのイベントでは、近隣自治会の協力を得ながら運営することができ、広報活動などにも活かされた。

2015年度は、クラシック音楽や伝統芸能を「ふれあいプラザ」の特色としてイベント開催を計画する。文化教養講座では開催数を増やし、「地域の愉しみ」の発信基地として活動する。

介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2014年度は安定した経営基盤を確立するために、計画的渉外活動の実施やパーソン・センタード・ケアの考え方に基づき、ケア・リハビリを充実させ、サービスの質の向上を図った。しかし、経営面では、入所・ショートステイ・通所リハビリ共に予算を下回り、厳しい経営状況となった。

2015年度は、介護保険制度改正に伴う理解・対応の迅速化と渉外活動の強化で新規利用者を獲得すると同時に、複合施設の強み・連携を具体化し更なる強化で、事業運営の安定を図る。また、河合町との連携を強化し、積極的に地域支援事業へ参画する。

ニッセイ聖隷クリニック

2014年度は、整形外科の休診などが影響し外来患者数を伸ばせず、診療報酬改定も加わって予算を大幅に下回る結果となった。医事・健診システムの更新に伴う運用面での安定稼働や業務改善を行ったほか、パーソン・センタード・ケアの浸透と実践に努めた。

2015 年度は、緩和ケアへの理解を深め本人が望む終焉など看取りへの付加、個別ケアの充実、整形外来の再開、複合施設の強みを活かした病床数確保、地域のニーズを踏まえた集患対策に努める。

ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2014 年度は、訪問介護収益が介護保険収益の伸びと有料老人ホームへのヘルパー派遣により、予算を達成することができた。

2015年度は、訪問介護の新規利用者を更に獲得するため、ヘルパー登録者や喀痰吸引研修修了者を増やし、福祉用具販売も含めて収益増とサービスの質の向上を図る。

ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル・奈良店

2014年度は、居宅介護支援員を1名増員し、3名体制とした。地域包括や事業所への渉外活動を担当制にしたことで直接の依頼が増えて利用者が増加している。訪問介護は喀痰吸引、特定加算（Ⅱ）の事業所登録を行ったが、利用者数、訪問件数ともに予算未達である。

2015年度も来店しやすい雰囲気づくりへの取り組みを継続し、利用者を増やし、安定した事業運営を目指す。

訪問看護ステーション西大和

2014年度は訪問看護の専門性を発揮し、幅広い訪問への関わりを積極的に行うことやリハビリテーションの需要増加に対応するためにリハビリテーション職員を増員し、事業運営の安定を図る事ができた。

2015年度は訪問看護の医療保険利用者の実費負担見直しによる件数獲得とエリア拡大に向けた渉外活動を行い、新規利用者の獲得に努めて事業運営の安定を図る。

ニッセイせいれい訪問看護ステーション奈良

2014年度は、近隣の居宅支援事業所・医院・保健所等と連携を深め、医療ニーズの高い利用者の訪問を行ってきた。しかし、ターミナル期の短期利用者が多く、安定した訪問件数を確保できなかった。

2015年度は、増え続ける医療保険の利用者の多様なニーズに応えながら人材育成や業務改善に取り組み、事業運営の安定を目指す。

ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

2014年度は、中重度・軽度関係なく利用者の積極的な受け入れを行うように「特定事業所加算（Ⅱ）」に変更するとともに、西大和地区居宅介護支援事業所（当事業所とニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル・西大和店）を一本化し、利用者増加と事業の安定化を図った。

2015年度は、介護支援専門員の定着を図り、介護保険改正に対応しながら、利用者・家族・地域からより信頼される事業所を目指し、件数増に取り組む。

ウェル・エイジング・プラザ　松戸ニッセイエデンの園

2014年度は、引き続き好調な入居者募集活動が展開できたため、一般居室については年間を通してほぼ満室の状況であった一方、90歳以上の入居者が70名余り、平均年齢84歳、介護認定者135名となり、医療や介護を必要とされる入居者が増加した。そのため、一般居室の介護認定者を対象としたデイサービス「ふれあいサロン」の拡充や、機能訓練の土曜・祝祭日の実施など、介護予防とともに自立した生活への支援について、サービス向上に取り組んだ。

2015年度は、全職員が募集担当としての意識を持ち、高い入居率維持のために業務を通じた募集活動への支援を継続していき、健全な園の運営を行っていきたいと考える。また、従来からの運営方針同様「入居者参画」「地域連携」をキーワードとして、より満足度の高いサービスの提供を実施していきたい。まず、感染症対応についてはリスク管理をさらに徹底し、園内での二次感染をゼロにすべく職員の意識向上と万全の対応を常に心掛ける。また、2014年度より本格的に提供を実施した治療食については、さらに質の向上を図りながら利用者数の増加に繋げたい。その上で、園の食事サービスをより魅力あるものへと改善を行い、朝・夕の喫食率については2014年度実績より2%程度の上積みを目標としたい。また、2017年春の開園20周年を目途とし、ニッセイ聖隷健康福祉財団の「安心」「健康」「生きがい」というテーマを実現するために、「健老長寿」というビジョンのもと、松戸ニッセイエデンの園に関わるすべての人々が共有し、遂行する目標を「松戸ビジョン」としてまとめ、一年を通してその実践を図る。

1．すべての入居者の「我が家」となります
2．名実ともにＮｏ.1と評価されるホームとなります
3．将来を見据えた整備を計画し遂行します

地域社会向けにはＷＡＣ施設という特徴を生かすとともに、松戸市からの災害時の一次避難所指定を受け、近隣の松戸愛光園、松戸市立福祉医療センター東松戸病院との連携を深めていく。環境・省エネルギーへの取り組みは、入居者参画型の松戸ニッセイエデンの園エコ宣言を基本に、実践した取り組みを評価し、継続して取り組んでいく。

以上を踏まえ、以下のような2015年度の重点目標を掲げ、目標達成に向けて取り組みたい。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ ここを選んで良かった ”と思っていただけるような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1．サービスの質の向上
2．人材の育成
3．経営基盤の安定
4．リスク管理体制の強化
5．メンタルヘルスへの取り組み強化
6．地域社会と連携した事業展開
7．環境・省エネへの取組み強化

【事業・運営計画】

有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1．各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

（ア）入居から看取りまでを支えるトータルケアの実践

（イ）情報共有の推進とさらなる活用

（ウ）入居者参画型の企画・行事の充実

（エ）健康・快適な暮らしのための食生活支援

2．人材育成

（ア）法人理念の継承

（イ）専門職の育成

（ウ）専門看護師・認定看護師等の活用

（エ）やりがいのある職場風土の醸成

3．経営基盤の安定

（ア）全職員が対応する入居者募集

（イ）介護保険の請求率アップ

（ウ）一時介護室及びクリニック病床の適正利用

（エ）介護保険改正に備えた介護基準の見直し

4．リスク管理体制の強化

（ア）感染予防対策の強化

（イ）災害対策の更新と充実

（ウ）ＩＡのＰＤＣＡサイクルの徹底

（エ）メンタルヘルス予防活動の継続

5．社会・地域への貢献と連携

（ア）ＷＡＣ施設としての取り組みの充実

（イ）広報活動の充実と園行事の地域への発信

（ウ）松戸市一次避難所運営を含めた地域防災活動の協議

（エ）入居者参画の省エネルギー・環境対策の推進

【数値指標】　　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	312戸/315戸	36戸/37戸	348戸/352戸
入居者数	401名/419名	37名/37名	438名/456名
入居率	99.0%	97.3%	98.9%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	28名	19名	35名	20名	12名	13名	13名	140名

職員数（常勤換算）	93.87名	※有料老人ホーム部分

診療所　「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

開設 19 年目を迎え、入居者の平均年齢は 84.0 歳を超え、さらに高齢化が進んできている。介護認定者数についても急激な増加傾向にあり、入居者の心と身体の衰えに対応することが急務である。医師、看護師と医療技術部門との情報連携とそれぞれの専門性を活かしたサービスで、「入居者の満足に繋がる医療・看護のサービスの提供（看取りまで）」を目指す。また、最新医療機器の整備により検査精度の向上と迅速な確定診断を行うことで、入居者、利用者へ安心と信頼を提供する。そのため以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組みたい。

1．医療・看護サービスの充実
　(ア)各課との連携を強化し、各職種の特性を活かしたチーム医療の実践
　(イ)入居者の定期健康診断の受診率向上
　(ウ)看取り看護の充実
2．人材の育成
　(ア)専門職としてのスキルアップ
　(イ)園内教育、研修制度の変革
　(ウ)やりがいのある職場風土の醸成
3．経営基盤の安定
　(ア)入居者の定期健康診断受診率（90%）とベッド稼働率（84%）向上
　(イ)全職員が費用対効果に対する意識を高め、実践する
　(ウ)近隣地域共用を含めた最新医療機器の有効活用による収益性の向上
4．リスク管理体制の強化
　(ア)ＩＡ(レポート)システムの有効活用
5．環境、省エネルギーへの取組み強化
　(ア)コスト意識を持った環境、省エネルギーへの取組みの更なる実践

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	4,390円	243日
入院部門	16.0名	11,000円	366日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	700名	800名
職員検診	235名	

高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

2015年度は、新規入居者が増加しているため需要を確認し、新たな教室起ち上げを検討する。コンサート・イベント等については、入居者の参加者数が減少してきているため、企画や開催方法の見直しを図りたい。入居者が余暇活動を通じて地域と交流し、交友関係を広げ、松戸ニッセイエデンの園での生活を充実できるよう支援していく。

1．新規教室の開講とイベントの企画・開催方法の見直し

2．広報活動による地域との交流

3．入居募集の支援

ニッセイエデン・ヘルパーステーション

介護保険改定における日常生活支援総合事業における動向について的確に情報収集をするとともに迅速な対応を図る。収入増加を図るべく事業拡充を積極的に行う。特に園内の有償サービス（ベル）の拡充に注力する。また、国の施策において地域住民運営のサービスが活発化していく中、地域に根ざす事業所の在り方として地域貢献について検討する。

1．事業所力の向上

（ア）事業拡充による収支の増加安定

（イ）ベル事業の拡充

（ウ）専門性を持った職員の育成

（エ）地域との連携強化による地域貢献

営業日数＝312日（月平均26日）

	件数/日	単価/件
介護給付	24名	3,980円
予防給付	12名	19,000円

※有償サービス

件数/月	単価/件
18名	11,300円

ケア付き高齢者住宅　明日見らいふ南大沢

施設開設 20 年目となる 2015 年度は、明日見らいふ南大沢の将来に向けての基盤づくりの年と捉え、今後施設が直面する課題を整理し、分析、検討を行い、わたしたちがこれから目指すものを可視化することに注力する。

職員一人ひとりは、自分たちの使命とプロとしての自覚を再認識し、目標を持って主体的に行動することにより、これまで以上に質の高いサービスの提供に繋げていく。2015 年度も入居者の安心・安全を第一に、また職員が働きやすい環境を整えることにより、20 年目を新たなスタート地点として施設運営を行っていく。

2014 年度は、公社募集管理事務所の効果的な入居者募集活動により、20 名の新規入居契約に結び付く結果となった。これは現場職員の募集セミナー等への積極的な参画や、ケアサービスの質、健康増進及び介護予防活動への取り組み等も成果の一助と考えられ、2015 年度も公社との協力・連携を維持しさらなる入居者増加を目指す。

また、これまで継続した取り組みにより一定の成果をあげてきた「看取り介護」や「認知症ケア」をはじめ、入居者一人ひとりを大切にしたケアの実践については、継続して取り組み、一層の浸透を図っていく。そのためにも、職場間の情報共有や連携をより強化し、また今まで以上に、入居者と関わる時間・機会を大切にしていく。

以上の取り組みが、入居者にとって「明日見らいふ南大沢で暮らす幸せ」につながり、職員にとって「明日見らいふ南大沢で働くことへの幸せ」となるよう、組織一丸となって目標に取り組んでいく。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・安全の施設創り
3. 人材育成の強化
4. さらなる効率的な運営

【事業・運営計画】

1. 『いきいき』『あんしん』の提供
   （ア）一人ひとりを、より大切にしたケアの実践
   （イ）部門間連携によるサービスの提供
   （ウ）看取り介護の継続的取り組み
   （エ）認知症ケアの実践と評価

2．　人材の育成

（ア）現場における個の力と総合化力の強化

（イ）職業人としての技術と意識の向上

（ウ）人材育成の仕組みに沿った職場内教育の実践

3．　さらなる効率的な運営

（ア）業務の可視化と情報の共有化

（イ）将来を見据えた組織の再構築

（ウ）職場・職員へのコスト意識の浸透

4．　地域に開かれた施設づくり

（ア）地域における施設の価値創造

（イ）地域活動への積極参加

5．　環境・エコロジー活動への取り組み

（ア）入居者と共同・協働による様々な活動の実践

（イ）環境美化活動の継続

6．　入居者募集

（ア）セミナー他、公社募集業務への協力と連携

【数値指標】　　2015年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	301戸	45戸	346戸
入居者数	350名	45名	395名
入 居 率	95.0%	84.90%	93.5%

要介護認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	20名	12名	29名	19名	12名	9名	12名	113名

職員数（常勤換算）	105.39名